

兵庫県こころのケアセンター 平成30年度実施分に係る  
外部評価委員会 事業評価

評価対象事業	評価	所見
研修事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 頻発する災害、虐待、DVによる被害者へのこころのケアのニーズは高い。15年連続で目標受講者数を上回る実績を残していること、また受講生の満足度が高いことは、継続的な事業の改善を通じて社会のニーズに効果的に対応している表れである。</li> <li>・ 県外からの受講者が50%を超えたことは、「こころのケア」の重要拠点としての認知がさらに高まっている証である。</li> <li>・ 全国的に児童精神科医が不足する中、子どもに対する支援の研修は有意義である。また、近年注目されているTF-CBT（トラウマ・フォーカスト認知行動療法）などを取り入れた特別研修を積極的に行っているところを高く評価する。</li> </ul>
情報の収集 発信・普及 啓発事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページのアクセス数が目標を大幅に超えていることは、社会のニーズに合致した情報が適切に発信されているものと評価する。</li> <li>・ シンポジウムについては、「子ども虐待の社会的コスト」という新たな視点を提示する内容となり、昨今大きな社会問題となっている「子どもの虐待」について、さらに関心を拡大させる機会となった。 虐待にかかる今後の支援体制については、県内外を問わず、ニーズに合ったアセスメントの啓発やスーパーバイズ等を通じ、連携を深めていくことを期待する。</li> </ul>
連携・交流 事業	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東日本大震災、熊本地震の他、近年発生した大阪北部地震及び西日本豪雨被害など、当センターの専門技術を必要とする被災地への対応を積極的にし、かつ息の長い支援を続けていることを高く評価する。</li> <li>・ 専門的技術を提供するというよりも、現場で共に考えて対応していくスタンスに優れており、平時から近畿ブロックの精神保健福祉センターとも良好な連携交流を行うことで、災害等発生時の円滑な連携に貢献している。</li> <li>・ また、「ひょうごDPAT」研修、南海トラフ地震を想定した内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練、兵庫県国民保護共同訓練に参加し、実践力の向上に取り組んだ。</li> </ul>
相談事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標の1,400件を大幅に上回る相談件数があったこと、特に性被害等のトラウマ PTSDに関する相談件数も増えていることは、増加する社会のニーズに対応できており、加えて当センターの専門機関としての認知がさらに拡大していることの表れであり、相談機能を十分に果たしている。</li> <li>・ 少ない職員で、効果的・効率的に相談を受けている。適切なアセスメントと関係機関との連携を活用したケースワークの成果と考える。アセスメントとケースワークの重要性をより広く関係機関に伝えてもらいたい。</li> </ul>
附属診療所の 運営	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トラウマ治療を専門的に行える医療施設が少ない中、当センターへの期待は、非常に大きいものがある。複雑性PTSDに適用した治療（ナラティブ・エクスポージャー・セラピー）が開始されるなど、診療機関としての役割が一層高まる方向にある。</li> <li>・ 初診者数は横ばいであるが、子どもの初診者が増え、子どものトラウマを扱える医療機関が少ない中で、特筆に値する。</li> <li>・ 複雑で困難なトラウマ・PTSD関連疾患への研究機関・専門的診療機関としての機能が、益々発揮されることを期待する。</li> </ul>

評価対象事業	評価	所 見
ヒューマンケアアカレッジ事業（音楽療法士養成講座）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽療法士の育成が課題とされる中、専門講座修了者数は目標数を達成し、努力の成果が認められる。音楽療法士養成のすそ野を如何に拡大していくのか、継続的な対策の検討と実施、結果の分析が必要である。</li> <li>音楽療法の普及活動にもよく取り組んでいるが、音楽療法の認知拡大については、その治療法としての有益性のみならず、職業としての魅力を一層訴求していく必要もあるのではないかと。</li> </ul>
ヒューマンケアアカレッジ事業（実践普及講座）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いのちの尊厳と生きる喜び」について広く普及啓発をする本事業は、それらが軽んじられるショッキングな事件が多発している昨今の社会においては非常に重要な事業である。</li> <li>県民の健康作りや地域福祉の向上に寄与するために、さらに多くの県民が受講できるよう、兵庫県と連携し、広報、日程、内容などの面での検討をすすめていただきたい。</li> </ul>
安定的な運営のための収支バランスの確保等	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>当センターの診療部門は、保険診療に馴染まないトラウマ・PTSD治療の提供が行える貴重な医療資源である。初診者数は、横ばいだが、診療延べ件数が増加している。</li> <li>事業や県民サービスの向上に努めつつ、自主財源の確保や効率的な運用に取り組みながら、適切な収支バランスを確保していることは評価できる。その結果、4,692千円の剰余金を確保したことは当センターの安定的な運営に大きく貢献している。</li> </ul>
研究調査に係る総合的な評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各研究内容は、いずれも当センターでないとできない専門的な研究である。長期的調査、支援受援、文献考察、当事者インタビュー等、十分な研究戦略を立てないと進められない難しいテーマであるが、十分な成果を出し、貴重な結果を公表している。外部の競争的資金を積極的に獲得していることも評価に値する。論文・研究発表会等へのより積極的な発信を期待する。</li> <li>今後、研究の成果を如何に社会実装につなげていくか、その課題や道筋などが示されることを期待したい。</li> </ul>

(評価基準)

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりと言えない面もあるが、工夫もしくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性が高い。